

平成19年度第3回北九州市立図書館協議会 議事録

1 会議名

平成19年度第3回北九州市立図書館協議会

2 議題

- (1) 「これからの図書館のあり方について」の諮問
- (2) 今後のスケジュール案について
- (3) 「これからの図書館のあり方について」検討小委員会の設置・委員の選出
- (4) 図書館の整備について

3 開催日時

平成20年2月1日(金)  
14時00分～15時00分

4 開催場所

北九州市立中央図書館内  
視聴覚センター第2会議室

5 出席者氏名

(1) 委員(棚次会長以下11名、欠席委員6名)

北九州市立大学学術情報総合センター長	棚次 奎介	会長
北九州市学校図書館協議会会長	吉田 幸雄	副会長
北九州市学校図書館協議会副会長	勝山 優子	委員
(社)北九州市私立幼稚園連盟理事	有益 節子	委員
北九州市PTA協議会中学校PTA母親代表	高良 美保	委員
北九州市社会教育委員	服部 多恵子	委員
BUCH北九州 絵本とおはなしの会	高井 眞紀子	委員
北九州児童文化連盟理事	佐山 幸子	委員
北九州市保育所連盟常任委員	中村 尋子	委員
成人読書会「四季」副会長	高畠 登美子	委員
(社)北九州青年会議所広報委員会委員	福嶋 真一	委員

(2) 事務局(西岡中央館長以下11名)

中央図書館長	西岡 幸則
中央図書館副館長	熊埜御堂 義明
中央図書館庶務課長	井上 好二
中央図書館奉仕課長	山本 達臣
中央図書館庶務課庶務係長	河野 吉彦

中央図書館奉仕課奉仕係長	豊田 善正
中央図書館庶務課庶務係	山本 清貴
教育委員会生涯学習部長	林田 勉
教育委員会生涯学習課長	黒野 まゆみ
教育委員会生涯学習課管理係長	三瀬 茂弘
教育委員会生涯学習課管理係	舛田 覚

## 6 一部非公開の理由

議題3の「検討小委員会の設置・委員の選出について」は人事に関することであるため、議題4の「図書館の整備について」には、委員相互の自由闊達、忌憚のない意見交換を行うため、及び非公開情報の議論も予想されるため、「附属機関の会議の公開に関する要綱」第3条第3項及び4項の規定により、非公開とする。しかし、後日、要旨をホームページで公開する。

## 7 傍聴者

2名

## 6 会議次第

(1) 開会

(2) 中央図書館長挨拶

(3) 議 事

①「これからの図書館のあり方について」(諮問)

②今後のスケジュール案について

③「これからの図書館のあり方について」検討小委員会の設置・委員の選出

④図書館の整備について

(4) 閉会

## 7 会議経過(発言内容要旨)

(1)「これからの図書館のあり方について」(諮問)

中央図書館長が諮問書を読み上げ、諮問書を会長に手交した。

(2)「これからの図書館のあり方について」の今後のスケジュール

(事務局)

配布資料に基づき説明。今年度中に今日を併せて3回ほど審議していただく予定である。

その後、幅広く市民の意見を聴くため、アンケート調査等を行いたいと考えている。最終的には20年度中に答申をいただきたいと考えているが、できたら秋ごろを目途に中間報告をいただきたいと考えている。詳細は、配布資料のとおりである。

### (3) 「検討小委員会」の設置・委員の選出

(会長)

前回の答申検討時の状況と円滑で迅速な協議に配慮し、図書館協議会内に小委員会を組織して具体的な検討を進める。テーマによっては、外部の専門家の意見やアドバイスを受けられるようにしていきたい。具体的な小委員会の人選案はお手元配付の資料のとおりである。

(事務局)

前回答申時の小委員会の人選については、学校教育関係者、社会教育関係者、学識経験者の各分野から2名ずつ選出されている。会議全体の統括の関係から、正副会長も選任されており、その他社会教育委員、子ども読書の推進や利用者としての視点を踏まえたものである。

(会長)

事務局案にかかわらず、自薦、他薦を問わないので、何か意見はないか。北九州市内の図書館の配置等の問題もあり、特に八幡西区等の図書館の要望の関係で、何かないか。

(委員)

主にどの区で活躍されている委員か教えていただきたい。

(事務局)

(配付資料の候補者欄の) 上から棚次会長が八幡西区、吉田副会長は小倉北区、浜崎委員は門司区、服部委員は小倉南区、それから中村委員は門司区、高島委員は小倉南区である。

(会長)

全部で6名だが、追加等はないか。ないようであれば、6名に決定する。本日欠席の浜崎委員の同意については、事務局と会長に一任していただきたい。

### (4) 「図書館の整備について」

① 配布資料に基づき、

ア各区居住の登録者の利用状況

イ北九州市立図書館の配置図

ウ「小倉南区への図書館整備に対する陳情」

エ八幡西区の黒崎の文化・交流拠点地区施設整備計画検討委員会の概要について事務局から説明。

(委員)

各区居住の登録者の利用状況について、各区の傾向や特徴について説明していただきたい。

(事務局)

(門司区)

門司図書館と大里分館の貸出冊数のうち80～90%は、門司区の登録者が利用している。

また、門司区の登録者の86%は門司区内の図書館で本を借りている。

(小倉北区)

中央図書館の貸出冊数のうち、小倉北区の登録者の利用は54%程度であるが、中央図書館が各区の登録者から利用されており、中央図書館であるという証明である。また、小倉北区の登録者の77%は、小倉北区内の図書館を利用している。

(小倉南区)

中央図書館の貸出冊数のうち約17%は小倉南区の登録者が利用しており、また、企救分館、曾根分館の約90%は小倉南区の登録者が利用している。また、小倉南区の登録者の約73%は小倉南区内の図書館を利用しており、それ以外は中央図書館・勝山分館で借りているという傾向である。

(若松区)

若松区の登録者の場合は、若松区内で借りる傾向が強く、約95%の登録者が、若松区内の図書館を利用している。島郷分館は、その割には若松区の登録者の利用率が低く、56%くらいである。これは八幡西区の登録者が多く借りているためである。

(八幡東区)

八幡図書館の貸出冊数のうち、八幡東区の登録者の利用は、約52%しかなく、八幡東区の登録者の八幡東区内の図書館の利用は、65%くらいである。他の区における区内図書館の利用状況に比べると低い値となっている。その分、約20%の登録者が戸畑区内の図書館を利用している。交通アクセスの状況がよいのも理由である。また、12%くらいは中央図書館、勝山分館を利用しており、他区に比べると区内以外の図書館を利用する傾向が強い。

(八幡西区)

区別の貸出冊数が最も多く、基本的には自分の区の図書館で借りる傾向は他区と同様である。八幡西区内の図書館の約90%以上は、八幡西区の登録者が借りている。また、八幡西区の登録者が八幡西区内の図書館を利用した割合は、71%で若干低く、八幡図書館が約14%、若松区内の図書館も9%程度利用されている。さらに、ここの特徴として、水巻図書館で借りる可能性が考えられ、北九州市民への貸出冊数の約22万冊のうちのかなりの方が八幡西区の方と推測され、八幡西区の需要は高いという状況である。

(戸畑区)

基本的には戸畑区内の登録者の利用が多く、約90%の登録者が、戸畑区内の図書館で本を借りている。ただ、戸畑図書館は、指定管理者が頑張っており、八幡東区や小倉北区などからも利用されている。戸畑区の登録者の約90%が戸畑区内の図書館を利用しているにもかかわらず、戸畑図書館の戸畑区の登録者に対する貸出の割合は約70%で、戸畑分館では約56%と、他の区の登録者にもよく利用されている。

この資料は、今後、図書館配置を考えると、区単位で考えるのか、一つのエリアや生活圏など広い範囲で捉えていくのかなど、いろいろな発想の参考のために作成したものである。

(会長)

小倉北区は中央図書館がありながら、市全体の率より少し登録者の割合が少ない。また、地区図書館が設置されていない八幡西区と小倉南区も少ない。登録率は区単位というよりも、北九州全体の図書館あるいは分館の配置、そして住所からの交通アクセスの要素、どういう形で図書館を利用しているのかということが関係してくるのではないかと。だから一概には言えないが、八幡西区、小倉南区に図書館を設ければ、それなりに登録率も上がるかもしれない。また、八幡西区の傾向として、水巻図書館を利用している。また、島郷分館を、便利がよいということで利用している。これらのことを含めて詳細に分析していかなければならない。

(委員)

区の人口に対する登録者の割合や交通アクセスの問題、また、自分の価値観などで利用状況が違ってくる。どういう人たちが利用して、なぜ利用していないのかということをお聞きしなければならない。だから、どうして利用状況がこれだけ違うのかといえば、私たちは小倉北区に来たときは、小倉北区で借りる。勤務地で借りているのか、自分の住んでいるところで借りているのか、働いている人といない人との違いなど、アンケートの対象者も非常に問題になる。

この登録率を上げるためには幅広く調査をして、どんなニーズがあるか、どこまでそのニーズに応えられるかということであり、非常に難しいところである。だから場所もあるが、いろいろなアクセス方法もある。大きな商業施設に行き、行ったついでに映画を見るのと同じように図書も借りようかという人もいる。いろいろな人のアンケートを採るのは大変だが、いろんな形のアンケートの結果が出たら面白い。

(委員)

若松区の登録率が高いのは、図書館だよりなどPR活動が盛んだということはないのか。

(事務局)

推測だが、若松は図書館が新しく、若松の渡し場の近くの風光明媚な洞海湾の景

色がきれいなスーパーの中にある。それで、買物のついでに行けるというのと、駐車場も、そのスーパーの駐車場を利用できる。それと新しくできた図書館なので、作り方が、広々として、本棚も低いし、テラスも眺めがいいから、開放感がある。

(委員)

若松の図書館は海が見え、とてもいい館である。利用もしやすいことも一つの要因である。帰りは、買物もできる。主婦にとっても一日そこで過ごせるような状況にある。私も他に島郷や折尾分館を利用しているが、駐車の問題があり、折尾には行きづらい。しかし、一日ゆっくりとなると水巻の方に行ってしまう。

(委員)

今、委員の意見にもあったように、過ごせるとか、一日ゆっくりとか、図書館に対するニーズがかなり変わってきていると実感している。図書館は、勉強するところ、本を借りるところだと思い込んできたが、他には、こんな図書館があるのか、というものもあった。

しかし、ハードを変えることは難しいので、それでは何ができるのかということを考えていかなければならない。小委員会の委員に選ばれ、光栄に感じるが、もう少し委員数を増やせないのかと思う。

(会長)

その点に関しては、いろんな方々の意見を聞くため、アンケートや委員会の中でヒアリング等を行いながら、進めていくことも考えている。検討委員会を大きくすると、動きが滞る可能性があり、追加しても1人くらいかと考える。いろいろな意見を広く聴きながら、検討を進めていくということは考えていきたい。

(委員)

古い考えかもしれないが、ニーズもいろいろあるから、広いスペースがあって、くつろげて、ゆったりして親子で行ってもいいという図書館と、一生懸命勉強したり、調べ物をしたりという図書館、あそこに行けばどんな本もあり、大学生が調べ物するときに大学になくても、あの図書館に行けばあるというようなことが、中央図書館の役目かなと思う。中央図書館まで、そんなふうにしてほしくない。

(委員)

小倉南区に住んでいるが、中央図書館に行く場合が多い。近くに企救図書館があっても、中央図書館に行く。探している本などもインターネットで調べて、分館は本が少ないので、結局、中央図書館に行くということになる。

こういう陳情があったことを今日、初めて知ったが、小倉南区にも地区図書館ができれば、もっと子ども達も身近に本に接する機会が増えるのではないかと思う。先ほど、アンケートを行うと言っていたが、是非、小さい子どもを持っているお母さんとか、子どもから少し手が離れた方とか、いろんな方にアンケートを採ってい

ただきたい。子ども達にも、どんな図書館なら行ってみたいかとか、そういうものも是非聞いてもらって、いろいろな立場の人の意見を吸い上げてみたら、思ってもなかったような意見が出てくるのではないかと思う。

(委員)

城野の刑務所跡地もいいが、空港跡の方がいいのではないか。広いスペースがとれ、新興住宅もたくさんできている。黒崎の場所は非常にいいので、小倉南区は城野だけに絞らないで、空港跡地も今なら、図書館と大きなホールみたいな広いスペースが取れるのではないか。

(会長)

いろいろな意見があり、アンケートの中でも、いろいろ出てくると思う。夢を描くことはたくさんあるが、それが実現するかということがある。図書館サービスの部分は、ある程度実施可能だが、配置の問題となると、思ったようにいかない。どこに建てるかとか、古くなった図書館をどうするかとか、場合によっては統廃合とか、そういうあり方も視野に入れて検討しなければならない。今の登録率は悪いが、文化都市という、大きなことを言えば、そういうものを目指して図書館が中心となってその役割を担っていくということで、答申を出していきたい。

## 「これからの図書館のあり方について」検討小委員会 第1回会議録

### 1 会議名

「これからの図書館のあり方について」第1回検討小委員会

### 2 議題

- (1) 資料等について（資料に関連して、配置等についても議論）
- (2) 次回の日程について

### 3 日時

平成20年2月1日（金）  
15時00分～16時00分

### 4 開催場所

北九州市立中央図書館内  
視聴覚センター第2会議室

### 5 出席者氏名

#### (1) 委員

北九州市立大学学術情報総合センター長	棚次 奎介	会長
北九州市学校図書館協議会会長	吉田 幸雄	副会長
北九州市社会教育委員	服部 多恵子	
北九州市保育所連盟常任委員	中村 尋子	
成人読書会「四季」副会長	高畠 登美子	

#### (2) 事務局

中央図書館長	西岡 幸則
中央図書館副館長	熊埜御堂 義明
中央図書館庶務課長	井上 好二
中央図書館奉仕課長	山本 達臣
中央図書館庶務課庶務係長	河野 吉彦
中央図書館奉仕課奉仕係長	豊田 善正
中央図書館庶務課庶務係	山本 清貴
教育委員会生涯学習部長	林田 勉
教育委員会生涯学習課長	黒野 まゆみ
教育委員会生涯学習課管理係長	三瀬 茂弘
教育委員会生涯学習課管理係	舛田 覚

### 6 会議経過（発言内容要旨）

## (1) 資料について

### (事務局)

第1回目の小委員会を始めます。今後、検討に当たって、資料を前もって送ろうと思うが、一応、利用冊数とかは今日お見せしたので、次回からのご意見につないでいただきたい。

その他に必要な資料があったら、ご要望いただきたい。今事務局で考えている資料は、他都市の状況ですとか、最近できた全国の図書館の写真とか内容を揃えたいと思っている。

### (委員)

市民一人当たり、人口に対する貸出冊数がない。それと他都市の状況で、新しい図書館はだいたいイメージが分かるが、北九州市みたいに既存の施設を活かした他都市の例があれば、お願いしたい。

### (事務局)

人口一人当たりの貸出冊数の比較。もう一つが新しい図書館だけではなくて、古い、使い方とかユニークな特色ある図書館についても調査したい。

### (委員)

難しいかもしれないが、同程度の規模あるいは文化・産業などの立地で、図書館も同程度に配置されているような都市の利用実態などの資料は揃えられるか。

図書館の利用に関して、どのようなサービスを提供しているか、駐車場はあるか、新しい複合的な要素を持った図書館なのかどうか。行っただけで、馴染むというか、落ち着くとかそういった要素が、かなり利用のところで関わっているのではないかと思う。水巻図書館というのは、ある意味で斬新な、北九州市の図書館にはないようなものを持っている。新しいからそういう要素が付加されたと思うが、つまり人口に比べて利用者が非常に多い図書館の実態が明らかになれば、貴重な資料になるのではないか。

### (委員)

子どもの本がどれくらい借りられているかというのは、分かるか。子どもの本が子どもと母の図書館でどれくらい借りられているのかとか、その利用率とかは分かるのか。

要するに幼児の絵本とか。子どもに読み聞かせる本とか、借りたものの内容が分かるか。

### (事務局)

できるだけ、それに近い形で調べてみる。統計が取れるかどうか、検討する。

(委員)

学校図書館関係で、ご指示いただいた先生が建築家であり、人によって全然違う。いろんな資料を集めていただけたらと思うが、設計に携われる方というのは非常にセンスとかイズムを持っているので、それも提案時の大事な要素になると思う。設計により子どもが喜んだり、本当に読もうという真剣な状況になったり、読書環境が創られるということを経験した。その辺も教えていただきたいと思う。

(事務局)

水巻図書館は、小さな空間を上手く利用している。デザインが全体を見たら円を主体に造っている。光を取り入れて非常に工夫されている。天井もドームになっており、全体が広く見える。距離は限られているが、見た目非常に広く感じる工夫がある。

(事務局)

30～40年前は北九州市の図書館は最先端であった。よそが大きな図書館を建て、施設・設備にしても、ボタン一つで、本が目の前に出てくるとか、機械が出してくれる。本市は職員が閉架の中に捜しに行っている。しかし、これは時代が変わっていくと当然そうなる。その中で北九州市で今の状況の中で何を取り入れられるかというコンセプトを定めて、答申を作っていたきたい。

(委員)

福岡市は、福岡市の図書館のほうが総合図書館になって、県立図書館が古い。でも、持っているものはすごく、大事なことだと思う。国会図書館に行ったとき、今言われたように、機械で送ってくる。こども図書館も、こどもがほんと世界のものを見たりするのに、分かりやすくされている。それでも、ここ（北九州市）の図書館は、すばらしいと思う。

(委員)

図書館の質が、変わってきて、情報を取得するのはほとんどインターネットになっている。図書館の利用形態としては、自習する空間である。したがって、図書館離れも見据えて、新しい図書館を目指さなければならない。あるいはインターネットと連携するような形の図書館でなければいけない。ネットを介して図書を検索することはどこでもやっているが、この前の答申にもあったように予約できることも必要である。施設面でもパソコン等を配置し、そこで、いろいろアクセスしながら、かつ図書も参考にしながら、調べものをしたり、知識を拡大していくような図書館が必要である。ただし、そればかりやると高齢者は近寄れなくなる。近代化も一定程度構築していかないといけないが、施設が古くなると難しい。やはり、新しい視点で新しい施設でないといけない。

(2) 次回の日程について

(事務局)

次回の検討小委員会の日程は2月下旬ころに開催したい。詳細な日程は事務局から関係委員と調整して決定したい。

(委員)

今回は、アンケートが主な内容になるのか。

(事務局)

今日もアンケートの件について要望が出ていた。委員からも、ご提案いただきたい。何か利用状況等を含めて設置に役立つような、うまい問いかけもしくはアンケートの方法等あれば、是非ご提案いただきたい。また、配置というのが新しい課題なので、早めに進めていかないといけない。配置のことに関しても、さらに、突っ込んだ議論をしていただきたい。

(委員)

ある程度、論点を整理するということも必要である。

## 7 問合せ先

教育委員会中央図書館庶務課

093-571-1481